

# 産婦人科家庭医療学

## 1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在
教授	0 人
病院教授	0 人
准教授	0 人
病院准教授	0 人
講師（うち病院籍）	0 人 (0 人)
病院講師	0 人
助教（うち病院籍）	0 人 (0 人)
診療助教	0 人
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	2 人
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人 (0 人)
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	1 人
合計	3 人

## 2 教員の異動状況

杉村 基 （特任教授）（2012 年 6 月 15 日～現職）

鳴本 敬一郎 （特任助教）（2012 年 7 月 1 日～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2 編 (0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編
そのインパクトファクターの合計	0.00
(3) 総説数（うち邦文のもの）	9 編 (9 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編 (0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編 (0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Ito T, Takenoshita R, Narumoto K, Plegue M, Sen A, Crabtree BF, Feters MD. A Community-based Intervention in Middle schools to Improve HPV Vaccination and Cervical Cancer Screening in Japan. Asia Pacific Family Medicine. 2014;13:13.
2. Crabtree B, Narumoto K, Motohara S, Feters MD. Family Medicine Research: New perspectives on family medicine research. An Official Journal of the Japan Primary Care Association. 2014;37(2):116-123. (クラブトリー・ベンジャミン、鳴本敬一郎、本原理子、フェターズ・マイク D. 「家庭医療学研究：新たな家庭医療学研究の展望」日本プライマリ・ケア連合学会誌)

インパクトファクターの小計 [ 0 ]

## (2-1) 論文形式のプロシーディングズ

## (2-2) レター

## (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 鳴本敬一郎、堀江克典、杉村基「こんな腹痛患者が来たら... 症例からわかる診断・治療のポイント」. プライマリ・ケアでの女性の診かた. 井上真智子編集. 2015年2月. 羊土社.
2. 鳴本敬一郎、堀江克典、杉村基「妊娠中のコモン・プロブレム」レジデント 2014;7(7):67-74.
3. 杉村基 【妊娠高血圧症候群 UPDATE】 治療 抗凝固療法 周産期医学 44 巻 11 号 1485-1491 2014
4. 杉村基 【妊娠高血圧症候群のベストマネジメント】 診断と評価 母体の血液凝固・線溶の病態評価と治療法 臨床婦人科産科 68 巻 11 号 1063-1070 2014
5. 杉村基 【産科と麻酔-帝王切開と無痛分娩の麻酔法-】 深部静脈血栓/肺血栓塞栓症予防対策と産科麻酔の今後の展望 産婦人科の実践 63 巻 8 号 1037-1045 2014
6. 杉村基 【一般内科外来でみる出血傾向 「ぶつけてないのにアザ!」にあわてない】 血小板減少を生じる主な疾患の診断と治療 妊娠中の血小板減少症 診断と妊娠分娩時の注意内科 114 巻 2 号 245-249 2014
7. 杉村基 【新たな早産予防戦略】 サイトカインからみた早産機序 産科と婦人科 81 巻 1 号 7-13 2014
8. 杉村基 【血栓性疾患-薬効薬理と病態生理に基づいた治療戦略の展開】 血栓性疾患の視点から見た内科医、一般医が理解すべき妊娠の病態 カレントセラピー 31 巻 3 号 279-284 2013

インパクトファクターの小計 [ 0 ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. .. 松田真和、岡崎友里、飯田智子、鳴本敬一郎、杉村基. 「妊娠したい人へのケア」. お母さん

を診よう プライマリ・ケアのためのエビデンスと経験に基づいた女性診療. 中山明子、西村真紀編集. 2015 年 4 月. 南山堂.

インパクトファクターの小計 [ 0 ]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

(5) 症例報告

#### 4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

#### 5 医学研究費取得状況 (万円未満四捨五入)

	平成 26 年度
(1) 文部科学省科学研究費	1 件 (80 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	1 件 (0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件 (0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

基盤研究 C「プロテアーゼ活性化受容体—細胞内シグナル伝達系を介した絨毛細胞障害修復機構の検討」代表：杉村 基 平成 26 年度～28 年度 80 万円

(2) 厚生労働科学研究費

平成 26 年度厚生労働科学特別研究事業「持続可能な周産期医療体制の構築のための研究」

代表者 北里大学医学部産婦人科主任教授 海野信也 292.5 万円

平成 26 年 10 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日

分担者 産科医負担軽減策 鳴本敬一郎

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

#### 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	2 件
(2) シンポジウム発表数	1 件	3 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件

(5) 学会役員等回数	0 件	4 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
- 4) 座長をした学会名
- 5) 一般発表

口頭発表

鳴本敬一郎，“骨盤形態の変遷とその決定要因”第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会，ランチョンセミナー「骨盤形態と胎内不良姿勢」にて講演。2015 年 4 月 11 日（神奈川）。

鳴本敬一郎，“総合診療専門医の周産期医療への貢献：概念から実践へ”平成 26 年度拡大医療改革委員会産婦人科医療改革 公開フォーラム，2015 年 1 月 25 日（東京）。

鳴本敬一郎，“GDM 既往女性の生涯にわたるヘルスケア～家庭医の役割～”第 30 回日本糖尿病・妊娠学会シンポジウム企画「糖尿病女性とウィメンズヘルス・ケア」にて講演。2014 年 11 月 29 日（長崎）。

鳴本敬一郎，“現代女性の骨盤形態の実態とその経年的変化”第 118 回日本産科麻酔学会学術集会シンポジウム「女性骨盤の時代的変遷」にて講演。2014 年 11 月 24 日（東京）

鳴本敬一郎，“ウィメンズヘルス・ケアにおける家庭医の存在意義”プライマリ・ケア医の明日を探るフォーラム，国際シンポジウム「なぜ、家庭医療がウィメンズヘルス・ケアに必要なのか」のパネリスト，2014 年 11 月 1 日（石川）。

鳴本敬一郎，“骨盤の形態を決定する因子は？学童期～思春期の身体活動との関連”第 30 回日本分娩研究会プログラム。スポンサードワークショップ「骨産道を診ていますか？」にて講演。2014 年 9 月 12 日（千葉）。

鳴本敬一郎，“日本人女性の骨盤のスリム化から見えるもの”助産所部会企画「助産を極める」にて講演。2014 年 7 月 12 日（神奈川）、2014 年 11 月 22 日（大阪）。

鳴本敬一郎、“家庭医が考えるお産の未来“第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会（東京）、「会長企画パネルディスカッション：想像しよう，日本のお産の未来を」にて講演。2014 年 4 月 18 日。

鳴本敬一郎、杉村基、Fetters MD, Ivey L, 本原理子、藤井肇、城向賢、飯田智子、津田司。“浜松医科大学産婦人科家庭医療学講座による女性医療教育と地域の産婦人科診療への貢献” 第 5 回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（岡山）にて口頭発表。2014 年 5 月 10 日。

鳴本敬一郎、杉村基、嵯峨こずえ、藤井肇、城向賢、飯田智子、岡崎友里、山田智子。“現代女性の骨盤形態：プライマリ・ケア医の介入の意義は？” 第 5 回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（岡山）にて口頭発表。2014 年 5 月 10 日。

#### ポスター発表

鳴本敬一郎、杉村基、藤井肇、城向賢、飯田智子、松永要一。“A determinant factor for pelvic shape: Association between physical activity and pelvic characteristics in Japanese adolescents” 第 67 回日本産科婦人科学会学術集会にてポスター発表。2015 年 4 月 10 日（神奈川）。

#### （3）役職についている国際・国内学会名とその役割

##### 杉村基

日本妊娠高血圧学会理事、日本血栓止血学会評議員（肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドライン作成委員会委員、学術標準化委員会委員、学術促進委員会委員）、日本周産期・新生児医学会評議員（幹事、広報委員）、日本産婦人科・新生児血液学会評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	1 件	0 件

#### （1）国内の英文雑誌等の編集

Motoi Sugimura, Editorial Board, Hypertension Research in Pregnancy

#### （2）外国の学術雑誌の編集

#### （3）国内外の英文雑誌のレフリース

Motoi Sugimura reviewer, 5 Journal of Obstetrics and Gynecology Research (Japan)

2 Hypertension Research in Pregnancy (Japan)

## 9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
（1）国際共同研究	0 件
（2）国内共同研究	0 件
（3）学内共同研究	0 件

## 10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受 賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞

杉村基 平成 2 6 年 日本学術振興会 科研費審査員表彰

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

## 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

## 14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

## 15 新聞，雑誌等による報道